

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-18215

⑤ Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	④ 公開 昭和62年(1987)1月27日
B 29 B 11/08		7425-4F	
// B 29 C 49/06		7365-4F	
		7365-4F	
B 29 K 67:00		4F	
B 29 L 22:00			
		審査請求 未請求	発明の数 1 (全5頁)

⑬ 発明の名称 延伸ブロー成形用ブリフォーム

⑭ 特 願 昭60-156007

⑮ 出 願 昭60(1985)7月17日

⑯ 発 明 者 宮 崎 真 一 東京都文京区千石2の34の11

⑰ 出 願 人 東洋製罐株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目3番1号

⑱ 代 理 人 弁理士 鈴木 郁男

明 細 書

1. [発 明 の 名 称]

延伸ブロー成形用ブリフォーム

2. [特 許 請 求 の 範 囲]

- (1) ポリエチレンテレフタレート射出成形で形成された首部、胴部及び閉蓋底部を有する延伸ブロー成形用ブリフォームであつて、首部内周面よりも小径の内周面と首部外周面よりも小径の外周面とを備え且つ首部厚みよりも大きい厚みを有する胴部を備え、前記胴部と首部との接続部は、垂直断面で見て内方に凸の円弧状内面と内方に凸の円弧状外面とで規定されしかも円弧状内面が円弧状外面よりも大きい曲率(1/R)を有していることを特徴とする延伸ブロー成形用ブリフォーム。

3. [発 明 の 詳 細 な 説 明]

産業上の利用分野

本発明は、延伸ブロー成形用ブリフォーム(予備成形体)に関するもので、より詳細には二軸延伸ポリエステルびんの製造に際して胴部に対して

大きな周方向分子配向を付与することができ、しかも胴部にレンズ効果がなく外観特性に優れたびんを製造し得るブリフォームの形状に関する。

従来の技術及び発明の技術的課題

延伸ブロー成形ポリエステルびんは今日では一般化しており、その優れた透明性と適度なガスバリアー性により、液体洗剤、シャンプー、化粧品、醤油、ソース等の液体商品の外に、ビール、コーラ、サイダー等の炭酸飲料や、果汁、ミネラルウォーター等の他の飲料容器に広く使用されている。

ポリエステルびんの成形に際しては、ポリエステルの射出成形により、最終容器より寸法のかなり小さく且つポリエステルが非晶質状態の有底ブリフォームを製造し、この有底ブリフォームをその延伸温度範囲においてブロー金型中で軸方向に引張延伸すると共に、周方向にブロー延伸する方法が採用されている。

有底ブリフォームの形状としては、びんの首部に対応する首部、例えば密封用開口端、蓋係合用

ネジ及び支持リング等からなる首部を有し且つ全体としての形状が試験管状のものが一般的であるが、その軸方向寸法及び周方向寸法は、最終容器における軸方向及び周方向への延伸倍率との関連で決定されねばならない。これらのブリフォーム寸法の内軸方向寸法は延伸倍率に応じて任意に設定し得るが、周方向寸法(径)は周方向延伸倍率によつて任意に設定することが困難な場合が多い。

例えば、最終容器の首部径が容器胴径に比して比較的大きい場合には、ブリフォーム首部径とブリフォーム胴部径とを同一にしたのでは、最終容器胴部に有効な周方向の分子配向を付与することが困難な場合が多い。しかして容器胴部に周方向の分子配向が十分に付与されていない場合には、内容物として充填される炭酸ガス等による内圧により胴壁が周方向に膨脹し、この膨脹により胴壁に貼着したラベルが離脱するというような不都合を生じる。

かくして、比較的大きな口径を有するポリエステルびんの場合、上記欠点を克服するためには、

本発明の他の目的は、最終容器胴部に対して大きな周方向分子配向を付与し、これにより内圧による容器胴の周方向膨脹を小さなレベルに抑制し得ると共に、容器肩部における厚さ変動によるレンズ効果を解消して容器の外観特性及び商品価値を高め得るポリエステルびん延伸成形用ブリフォームを提供するにある。

本発明の更に他の目的は、ブリフォーム首部径に比してかなり小さい胴部径を有し且つ首部直下から径の減少が急激に生じているにもかかわらず、最終びん肩部におけるレンズ効果の発生が有効に抑制されているポリエステルびんの延伸ブロー成形用ブリフォームを提供するにある。

発明の構成

本発明によれば、ポリエチレンテレフタレート射出成形で形成された首部、胴部及び閉塞底部を有する延伸ブロー成形用ブリフォームであつて、首部内周面よりも小径の内周面と首部外周面よりも小径の外周面とを備え且つ首部厚みよりも大きい厚みを有する胴部を備え、前記胴部と首部との

ブリフォーム胴部の径をブリフォーム首部の径よりもむしろ小さくして、びん胴部に十分な周方向延伸倍率が得られるようにする必要がある。

しかしながら、ブリフォーム胴部の径がブリフォーム首部の径に比してむしろ小さいブリフォームを延伸ブロー成形に付する場合に、形成されたびんの首部から胴部に至る肩部に厚みの不規則に変動する部分が必ず存在し、厚みの変動によるレンズ効果によつて、このびんを観察した場合、びんの内部が著しく歪んで見え、びん自体の外観が著しく不良となり、商品価値が低下することがわかつた。このような傾向は、首部と胴部との段差が大きいブリフォームや首部直下からの径の減少の程度の大いブリフォームにおいて特に顕著である。

発明の目的

従つて、本発明の目的は従来のブリフォームにおける上記欠点が解消されたポリエステルびんへの延伸ブロー成形用ブリフォームを提供するにある。

接続部は垂直断面で見て内方に凸の円弧状内面と内方に凸の円弧状外面とで規定されしかも円弧状内面が円弧状外面よりも大きい曲率($1/R$)を有していることを特徴とする延伸ブロー成形用ブリフォームが提供される。

発明の特徴及び作用効果

本発明は、首部内周面よりも小径の内周面と首部外周面よりも小径の外周面とを備え且つ首部厚みよりも大きい厚みを有する胴部を備えたポリエステル射出成形ブリフォームにおいて、前記胴部と首部との接続部を、垂直断面で見て内方に凸の円弧状内面と内方に凸の円弧状外面とで規定されしかも円弧状内面が円弧状外面よりも大きい曲率($1/R$)を有する形状とするときには、このブリフォームのびんへの延伸ブロー成形に際して、最終容器胴部に対して大きな周方向分子配向を付与し、これにより内圧による容器胴の周方向膨脹を著しく小さなレベルに抑制し得ると共に、容器肩部における厚さ変動によるレンズ効果を殆んど完全に解消して容器の外観特性及び商品価値を高め

得るという新規知見に基づくものである。

ポリエステルびんの肩部におけるレンズ効果は、成形の良好でないガラスびんの場合と同様に、周方向に厚みの変動がある場合にも、或いは軸方向に厚みの変動がある場合にも同様に生じる。本発明によれば、首部と胴部との接続部形状を内方に凸の曲面形状としたことにより、この接続部が階段状、テーパ状或いは外向きに凸の曲面形状となつている場合の何れに比しても、レンズ効果の発生を顕著に抑制し得るのであつて、この事実は後述する例を参照することにより容易に了解されよう。

本発明の接続形状により、このような作用効果が達成される理由は未だ十分に明らかでないが、上記形状では、軸方向にもまた周方向にも延伸力が円滑に伝達され易いためではないかと推測される。

本発明によれば、更にまた、上記接続形状としたことにより、胴部への周方向延伸が最も有効に生じ易いプリフォーム形状、即ちプリフォーム首

部径に比してかなり小さい胴部径を有し且つ首部直下から径の減少が急激に生じている場合でさえも、最終びん肩部におけるレンズ効果の発生が有効に抑制されるという作用効果がある。

発明の好適実施態様

本発明を添付図面に示す具体例に基づいて以下に詳細に説明する。

本発明のプリフォームの一例を示す第1図において、このプリフォームPはポリエチレンテレフタレート射出成形及び過冷却により実質上非晶質の状態で製造されている。このプリフォームPは、大別して首部1と胴部2とこれらの間の接続部3とから成つている。首部1は密封用開口端4、電係合用ネジ5及び支持リング6を備えている。胴部2は例えば丸底の形の閉塞底部7を最下端に有している。

首部1と胴部2とは、首部内周面8よりも胴部内周面9が小径であり、首部外周面10よりも胴部外周面11が小径であり、しかも首部1の厚みよりも胴部2の厚みが大となる関係となつている。

接続部3は、垂直断面でみて内方に凸の円弧状内面12と、内方に凸の円弧状外面13とで規定されており、しかも円弧状内面12は円弧状外面13よりも大きい曲率($1/R$)を有する。

第1図の形状のプリフォームの諸寸法を説明するための第2図において胴部平均内径 D_1 と首部平均内径 D_2 との比、 D_1/D_2 は0.2乃至0.8特に0.3乃至0.7の範囲内で変動できる。また、胴部平均厚み t_1 と首部平均厚み(サポートリングを除く) t_2 との比、 t_2/t_1 は1.3乃至1.0、特に1.5乃至5の範囲内で変動できる。 D_2/D_1 の比が上記範囲よりも大きい場合には、周方向延伸倍率を高めて内圧による周方向膨脹が抑制された口の大きい容器を製造することが困難となる場合があり、一方この比が上記範囲よりも小さい場合には延伸ブロー成形が困難となる。また t_2/t_1 の比が上記範囲よりも大きい場合には、最終容器胴部が過度に薄肉となつてガスバリアー性が低下する傾向があり、一方上記範囲よりも小さいと、延伸ブロー成形性が低下する。

接続部円弧状外面の曲率半径 R_2 と円弧状内面の曲率半径 R_1 との比、 R_2/R_1 は、前記厚み比、 t_2/t_1 によつても相違するが、一般に1.05乃至2、特に1.1乃至1.5の範囲内にあるのがよい。この比が上記範囲外では、最終びんにおける肩部にレンズ効果が生ずる傾向が衰われる。

レンズ効果を肩部に生ずることなしに、胴部全体に有効な周方向分子配向を付与するためには、接続部高さ H_3 と首部内径及び胴部内径の差 D_1-D_2 との比、 $H_3/(D_1-D_2)$ は0.3乃至2、特に0.5乃至1とするのが望ましい。また、曲率半径 R_1 及び R_2 の絶対的値は、 R_2/R_1 の比が前述した範囲となり、且つ $H_3/(D_1-D_2)$ 及び t_2/t_1 が前述した範囲となる条件下で適宜決定される。

本発明によるプリフォームからの延伸ブロー成形は、このプリフォームを用いる点を除けば、それ自体公知の条件で行われる。先ず、延伸ブロー成形に際しては、プリフォームを、熱風、赤外線ヒーター、高周波誘電加熱等の手段で延伸適正温

度迄予備加熱する。その温度範囲は、85～120℃、特に95乃至110℃の範囲にあるのがよい。

このブリフォームを、それ自体公知の延伸ブロー成形機中に供給し、金型内にセットして、延伸棒の押込みにより軸方向に引張延伸すると共に、流体の吹込みによる周方向へのブロー延伸をする。この際、軸方向延伸倍率よりも周方向延伸倍率が大きく、その結果として周方向の分子配向が軸方向の分子配向よりも高度に行われるようにする。周方向の分子配向が軸方向の分子配向よりも高度に生じている事実は、びん胴部のポリエステル壁を、蛍光偏光法による面内配向測定法に付し、軸方向配向係数と周方向配向係数とを対比することにより確認される。

本発明を次の例で説明する。

実施例 1.

固有粘度が1.0のポリエチレンテレフタレート射出機に供給して射出金型中に射出し、第1図に示す形状の非晶質ポリエチレンテレフタレートのブリフォームを製造した。

向係数(ℓ)が0.284であり、軸方向配向係数(m)が0.102であつて、周方向に顯著に分子配向を生じていることが認められた。

このびんにラベルを巻付け貼着した後、4ガソリウムの炭酸ガスを含む水を充填した後蓋を密栓し、40℃の雰囲気にて3ヶ月間放置したが、周方向への膨脹は無視し得るもの(膨脹率0.5%)であり、ラベルの離脱も全く認められなかつた。

また、成形後及び内容物充填後のびん胴部を肉眼で観察したが、成形びん100本中、レンズ効果を示したびんは1本もなく、外観的特性に極めて優れていた。

比較例 1.

実施例1のブリフォームの代りに、接続部の内面及び外面が円錐面となつた以外は形状及び寸法が実施例1と同様のブリフォームを用いて、実施例1と同様に延伸ブロー成形を行つた。

得られたびん100本中、10本のびんには胴部にレンズ効果が表われ、内5本は著しく外観の不良のものであつた。

このブリフォームの寸法は、第2図に示す寸法で次の通りであつた。

H_1 (全高)	155.5 mm
B_1	10.5 mm
D_1	31.5 mm
D_2	15.4 mm
D_2/D_1	0.489
ℓ_1	2.0 mm
ℓ_2	4.4 mm
ℓ_2/ℓ_1	2.2
R_1	18
R_2	20.5
R_2/R_1	1.14

このブリフォームを100℃に加熱調温して、延伸ブロー成形機に供給し、ブロー金型内で軸方向及び周方向に逐次延伸ブロー成形した。延伸倍率は軸方向に2.75倍、及び横方向に3.47倍に設定した。

得られたポリエステルびんの胴部について、蛍光偏光法で配向係数を測定したところ、周方向配

4. [図面の簡単な説明]

第1図は本発明によるブリフォームの一例の側断面図であり、

第2図は第1図のブリフォームの諸寸法を示す説明図である。

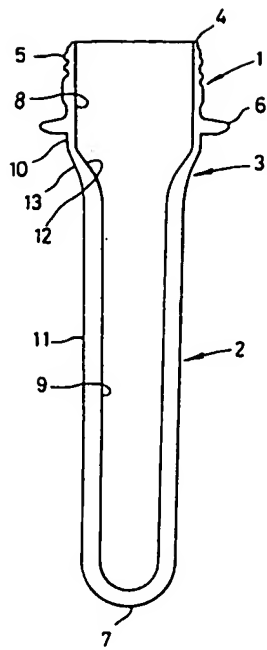
1は首部、2は胴部、3は接続部、12は円弧状内面、13は円弧状外面、 R_1 は内面12の曲率半径、 R_2 は外面13の曲率半径を示す。

特許出願人 東洋製罐株式会社

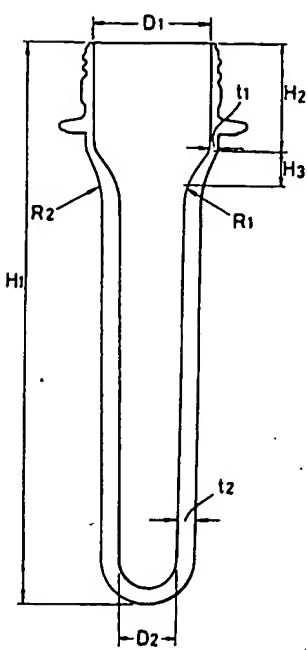
代理人 弁理士 鈴木 郁 男



第 1 図



第 2 図



PAT-NO: JP362018215A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 62018215 A
TITLE: PREFORM FOR DRAWN BLOW-MOLDING
PUBN-DATE: January 27, 1987

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MIYAZAKI, SHINICHI	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TOYO SEIKAN KAISHA LTD	N/A

APPL-NO: JP60156007
APPL-DATE: July 17, 1985

INT-CL (IPC): B29B011/08 , B29C049/06 ,
B29C049/08

US-CL-CURRENT: 264/328.1 , 428/542.8

ABSTRACT:

PURPOSE: To suppress the expansion of the vessel body to the circumference under small level, to get rid of the lens effect at the vessel shoulder due to the change of thickness and to improve the appearance and the value of the product, by forming the joint part of the body with the neck in such a shape that the vertical

cross-section are determined by inner and outer circular arc surfaces to be both convex to the inside and the curvature of the inner circular arc surface is larger than that of the outer circular arc surface.

CONSTITUTION: The neck part 1 and the body part 2 have such relations that the inner and outer circular surface of the body 9 and 11 have smaller radii than the inner and outer circular surface of the neck 8 and 10 respectively and the thickness t_2 of the body 2 is larger than the thickness t_1 of the neck 1. The vertical cross-section of the joint part 3 is determined by the inner and outer circular arc surfaces 12 and 13 both to be convex to the insider and the circular arc inner surface 12 has larger curvature ($1/R$) than the circular arc outer surface 13. The ratio of the curvature R_2/R_1 , where R_1 and R_2 are the curvatures of the inner and outer circular arc surfaces at the joint part respectively, is generally preferable in the range of 1.05 to 2, especially 1.1 to 1.5, depending on the thickness ratio t_2/t_1 .

COPYRIGHT: (C) 1987, JPO&Japio